

協議会二ユース

号 発行年月日 平成五年十一月一日
3 全国病児保育協議会事務局
第 58 芽吹書をもとより 030(58)0-61

第三回全国病児保育協議会 研修会開催にあたつて

大分市藤本小児病院院長
藤本 保

病児保育に対する関心は、ますます高くなっています。今年

べきなのか、これからが正念場となるでしょう。本事業に関する話題を拾うと、日本保育学会（福岡）でのシンポジウム、待しています。

日本小児保健学会（金沢）での

一般演題に4題、日本保育園医 1 総会

協議会（大阪）での一般演題3

(1) 事業報告（平成4年11月 H5・六・四）

題、紙上発表3題と多くの発表がされています。また、マスク

(2) 事業計画（平成5年11月 H5・六・四）

以下に、主なものを略記します。

（平成5年11月） ・平成4年度全施設入室状況調

査及び病態調査実施（H4・5・6・7）

・第4回総会、懇親会開催

（平成6年11月） ・研修会開催（受講証発行）

・役員会、代表者会議等開催

（平成6年11月） ・厚生省と懇談、協議

・会報発行

（平成6年11月） ・厚生省児童家庭局母子衛生課

・要望書提出（H5・一・二）

・厚生省と懇談、協議

・平成5年度病児保育病態調査

・小児デイケアーリーム新設につ

・利用者調査実施

（平成5年11月） ・各種学会、研修会参加及びそ

れらの調査研究活動に参加

・子ども週間行事、こども祭り
こどもの権利条約問題行事等
に参加

・各施設間交流及び地域の保育
所との交流促進
・社会的広報活動推進
・その他

などが討論の後、採決され、当
協議会の運営方針が決定される
予定です。

2 研修会

今回の主題は「病児保育制度

の進展と保育看護の向上をめざ
して」であり、このタイトルで
帆足先生に基調講演をしていた

だくことになっています。その後、看護と保育のそれぞれの立
場で現状の問題点や今後の課題
を掘り下げて討論するため、
二つの分科会にわかれて研修会
を行つことにしました。第一分

なれるように条件整備をしてい
が具体化しそうです。当協議会
参加全施設がこの事業の対象と
なればなりません。そのた
めには何が必要なのか、何をす

四)

マに、第二分科会では「保育内

容」をテーマとして、それぞれ

2名ずつの発題者に一五分(二

〇分間、話題を提供してもらひ

ワークシヨップのように参加者

による討論を活発に行い、成果

を生み出すことを目標にしてい

ます。昨年とはまた違った方法

による、講義を受け学ぶという

のではなく、Q&Aの形式で問

題解決を図り、参加することで

身につくと言うのが狙いです。

討議を活発にし実りあるものに

するため、発題者に発表内容の

抄録を用意していただきレジュ

メを作成します。

病児保育は、看護と保育の両輪がうまくかみ合ってこそ成り立つものです。全体会で両分科

会の成果を余す事なくまとめ、

日頃の疑問や障壁を克服でき、

明日からの活動がより質の高い

です。

保育合研病児分科会に出席して

東京ナオミ保育園内「バンビ」

真嶋康雄

「病児保育と公的助成問題」の題は、

「病児保育と公的助成問題」で、

今年八月に横浜で行われた、その内容は、全国保育協議会

「保育合研」(第十五回全国)

六月に厚生省に提出した「要望書」と病児保育施設の類型別シ

保育団体研究集会の病児分科会に出席しました。私たちのナ

オミ保育園では、保育合研の病

児分科会の発足以来二十数年、

毎年分科会へ「バンビ」を運営

する病児保育推進委員会から代

表を派遣してきました。今年も

私を含め四名が、病児分科会

(共働きと子供の病気・病気明

け保育)に参加しました。

今年は、集会事務局から前も

って分科会への「提案」を依頼

されており、当曰、枚方病児保

育室からの給食問題の「提案」

「こちやまぜ保育」には問題が

とともに発表しました。枚方の

「提案」では、これまで市から

給食への補助金が出されていな

かった事に驚き、園内にある

「バンビ」では問題にならなか

った病児保育室での給食の重要

性をあらためて認識しました。

活動二二日目

(平成五年)

四月二十四日

「小児デイケア制度」新設

設要望にあたっての小児科

医の懇談会

五月二十五日

「小児デイケア制度」新設

にあたっての要望書(案)

提出(日本小児科学会、日

本小児科医会、合同近畿社

保委員会)

六月三十日

京都府立大学生活科学部
住居学科学生見学

七月二十九日

「ミズ・プランニング」

石原雅子氏取材

八月三日

大阪市に要望書提出(保坂

会長・谷評議員)児童福祉

課長及び課長代理と懇談

八月二十一日

第二十五回全国保育合同研

ある。子供中心の保育の在り方

を考えよう」「私立だけでなく
公立の園でも病児保育運動を始
めたい」「必要性を感じてお
り、関心がある」「いざ、つく
ろうとするが困難」「何からき
るかを確認し、そこから出発し
たい」「地域、父母や行政を含
めて、病児保育を考える人たち
の横の繋がりを広げたい」とい
った発言がありました。

Bグループでは、「保育内容、
人員配置、施設面など、まだま
だ、いろいろな面で不十分」

「運営の中心となる人がやめた」
「財政問題が深刻」「医師の中
での理解がまだまだ、また、保
育者の中でも以外に理解が少な
いのでは」といった発言があり
ました。

全体討論では、「核家族化の
中で、子供を育てていこうとす
れば病児保育は必要」「保母の
中で感染が怖いという人がいる」
「やはり、病気の時は親が面倒
をみるべき」「簡単に病児保育
に預けるというのはどうか」
「病気の時でも親に任せられない
場合もある」「保育者の立場
からも病児保育を求めたい」
「専門のスタッフがいない中で
始めるのは躊躇する」「病気と
元気の狭間が子供にとって問題
で、その期間が大事」「日本で
は、普通保育の幅がなさ過ぎる
ので病児保育の必要性が出てく
る」という発言がありました。

「お母さんチョット」（お
かあさんたちがつくるおか
あさんと子供の生活新聞）

九月号に『診察室をたずね
て』と題して掲載

北海道庁児童家庭課、母子
保育課水島氏より問合せ

九月三十日
北海道庁児童家庭課、母子
保育課水島氏より問合せ

十月二十六日
朝日新聞（東京）より問合
せ（一覧表送付）

十月三十一日
八戸赤十字病院小児科医
施設見学

十一月一日
日経ホーム出版（東京）よ
り問合せ（一覧表送付）

十二月一日
して病児保育施設見学の打
合せの電話あり

十一月十五日

十一月二十六日

十一月二十七日

十一月二十八日

十一月二十九日

十一月三十日

十一月三十一日

十一月三十二日

十一月三十三日

十一月三十四日

十一月三十五日

十一月三十六日

十一月三十七日

十一月三十八日

十一月三十九日

十一月四十日

十一月四十一日

十一月四十二日

十一月四十三日

十一月四十四日

十一月四十五日

十一月四十六日

十一月四十七日

十一月四十八日

十一月四十九日

十一月五十日

十一月五十一日

十一月五十二日

十一月五十三日

十一月五十四日

十一月五十五日

十一月五十六日

十一月五十七日

十一月五十八日

十一月五十九日

十一月六十日

十一月六十一日

十一月六十二日

十一月六十三日

十一月六十四日

十一月六十五日

十一月六十六日

十一月六十七日

十一月六十八日

十一月六十九日

十一月七十日

十一月七十一日

十一月七十二日

十一月七十三日

十一月七十四日

十一月七十五日

十一月七十六日

十一月七十七日

十一月七十八日

十一月七十九日

十一月八十日

十一月八十一日

十一月八十二日

十一月八十三日

十一月八十四日

十一月八十五日

十一月八十六日

十一月八十七日

十一月八十八日

十一月八十九日

十一月九十日

十一月九十一日

十一月九十二日

十一月九十三日

十一月九十四日

十一月九十五日

十一月九十六日

十一月九十七日

十一月九十八日

十一月九十九日

十一月一百日

十一月一百零一日

十一月一百零二日

十一月一百零三日

十一月一百零四日

十一月一百零五日

十一月一百零六日

十一月一百零七日

十一月一百零八日

十一月一百零九日

十一月一百十日

十一月一百一十日

施設紹介

東京世田谷区ナオミ保育園内

にある病児予後保育室「バンビ」は二十七年前、「みんなが涙するときはどんな時か、父母が涙するときは子供が病気をすると

まされました。職場と家族との板

ばさみの末、病気の我が子を残

し家に鍵をかけ出勤する母親、

行く母の涙、残された子の涙、

そうしたつらい思いを子にも親

にもさせたくないという思いから、

園、職員、父母の三者の協

力で生まれた「バンビ」は運営

も三者から成る「病児保育推進委員会」で行われています。財

政は、園内の全世帯の全員が加盟する共済方式で賄われており、

二百円、二人世帯で六千二百円、一日の利用料一千円です。九三

年度の支出予算は約八百五十万円、

円、予算収入は七百五十万円が

共済費・利用料、残り百万円は、

バザーや常設品の販売活動で補

うつもりです。今年度は財政危

機の解決のため、共済費・利用

料の値上げを行い、父母の負担

は限界に来ており、公的助成＝

補助金問題が切実なものになつ

き」という話し合いの中から生

まれました。さて、「バンビ」は定員十名、

専任の保母一名、パートの保母

二名が保育にあたり、保育園、

母子寮が同居する法人の建物内

の一室にあり、園から保母や看護婦が「出張」でき、また、

「一時預かり」で園児が「バン

ビ」に預けられたり、互いに行

き来ができます。こうしたこと

から、預けられる園児には安心感があり、家庭的で温かい雰囲気に溢れており、病児予後の期間を精神面でも支えています。

また、親たちが、子供の病気に対する知識、処置方法を学ぶ場にもなっています。子供は病気

をしながら成長していくもので、

そうした場合、親も子も「バン

ビ」の存在は役立っており、保

育園にとつても、保健室のよう

な役割をしています。医療機関

との提携、看護婦の配置など今

後の課題としてあります。また、

公的助成＝補助金の問題への対

応がありますが、いわゆる「園

内方式」のよさも認められて、

補助金が実現されればと考えて

います。

10月の利用状況		10月の利用状況	
ひよこ	4名	10月はともに	3月19日
こりす	10名	子どもたち、元気	4:00
おはな	4名	かずら。お母さんは	5:30
こすりあ	3名	草むしりほとんじん	6:00
こばと	5名	今寝ねからねでじかを	
中	12名	かくとう	
おけれ	7名		
計	45名		

「バンビ」の1日		「バンビ」の1日	
AM 8:00	入室開始	3:15	おやつ
9:30	予約申し込み	4:00	換湯
10:00	換湯(離乳食)	5:30	自由あそび
	子供と保母の打詰し	6:00	特別保育開始
	楽しく遊ぼう		閉園
11:15	(附注: ここあそび 行事への参加回数)		
11:30	食事		
12:30	授業 午睡		

